

[HOME](#) > [コラム](#) > コラム

コラム

認知症全般知識に役立つコラム

認知症学会専門医 占部 新治先生による、「認知症全般知識に役立つコラム」です。第1～第4 金曜更新！

第7章 薬の話 認知症症状に効果があると認可されている薬
3項・メマンチン塩酸塩・メマリー

④メマンチン塩酸塩・メマリー

メマンチンは1項～2項で紹介した3剤とは違い、アセチルコリンによる情報伝達には関わりがありません。

メマンチンは、記憶に関わる脳の海馬という領域にある神経細胞に働きかけて、記憶の長期増強を助ける作用を持っています。海馬はヒトで記憶に関わる領域として20世紀に研究が始まり、機能画像という方法で記憶に関連していることが報告されています。この記憶に関係する海馬の神経細胞の表面にあるNMDA受容体に関して、アルツハイマー病では感受性が亢進し、細胞興奮がし易くなって過敏になりノイズが増えて情報伝達を傷害しています。このNMDA受容体に対して部分的に遮断してノイズを減らし、主たる情報のコントラストを改善する方法で情報伝達改善に働くのがメマンチンです。

中等度と重度の症状の方にだけ投与が認められています

メマンチンはアルツハイマー病の中等度と重度の方にだけ投与が認められています。

ノイズを減らす方法ですので、アルツハイマー病初期の方では、ノイズを減らす時に必要な情報伝達も影響を受けるため、効果としてマイナスが多いと考えられているためです。

また、認知症による心理行動異常（BPSD）に対して、妄想や攻撃性に効果があることが報告されています。認知症で感情機能におこる異常性を情報伝達で減少させてくれるのかもしれませんが。メマンチンは少量から2週間ごとに徐々に増量して20mgを一日1回で維持します。

これ等はアルツハイマー型認知症に効果のある薬剤です。ですが、アセチルコリンエステラーゼ阻害剤の3種類とNMDA受容体部分阻害剤と一緒に使用することが出来ますが、アセチルコリンエステラーゼ阻害薬同士と一緒に使用することができません。